

調査全体を通して、特に指示が無い場合は、  
令和5年5月1日時点の情報で回答してください。  
C-1-③を除き幼稚園は幼稚園型認定こども園を含み、  
保育所は保育所型認定こども園を含みます。

## C-1 基本情報

### C-1-① 園の学校コード

学校コード（13桁の英数字）及び学校名を以下のURLからご確認ください。

・URL：[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

※令和5年5月1日時点（暫定版）

### C-1-② 貴園の設置主体（1つ選択）

- ア 市町村（特別区を含む、以下、同じ。）
- イ 都道府県
- ウ 学校法人
- エ 公立大学法人
- オ 社会福祉法人
- カ 宗教法人
- キ ウ～カ以外の法人
- ク 個人

### C-1-③ 貴施設の施設類型（1つ選択）

- ア 施設型給付を受ける幼稚園（幼稚園型認定こども園を除く）
- イ 施設型給付を受けない幼稚園
- ウ 幼稚園型認定こども園
- エ 幼保連携型認定こども園

### C-1-④ 貴施設の教育課程の編成を行う年数（いわゆる2年保育3年保育などについて）

- ア 1年保育
- イ 2年保育
- ウ 3年保育（満3歳児を受け入れている場合を含む）

**C-1-⑤ 園児数（該当がない場合は 0 人と回答してください。）**

ア 満 3 歳～ 5 歳の園児数		人
イ アのうち外国籍を持ち、かつ、日本国籍を持たない園児数 ※ 把握している限りの情報に基づいて回答ください。		人
ウ アのうち障害のある（障害の可能性が考えられる幼児を含む）園児数 ※ 発達段階によっては判断がつかない場合もあるかと思いますが、園としての認識において回答ください。		人

**C-1-⑥ 学級数（該当がない場合は 0 と回答してください。）**

	満 3 歳児 (※)	3 歳児	4 歳児	5 歳児
ア 学級数				
イ アのうち、15 人以下の学級数				
ウ アのうち、16 人以上 20 人以下の学級数				
エ アのうち、21 人以上 25 人以下の学級数				
オ アのうち、26 人以上 30 人以下の学級数				
カ アのうち、31 人以上 35 人以下の学級数				
キ アのうち、36 人以上の学級数				

※ 満 3 歳児を 3 歳児と一緒に保育している場合、3 歳児の列に数値を回答してください。

**C-1-⑦ 教諭等 1 人当たりが担当する幼児数**

	教諭等（※ 1）1 人当たりが担当する幼児数
ア 満 3 歳児	
イ 3 歳児	
ウ 4 歳児	
エ 5 歳児	

※ 1 「教諭等」とは幼稚園教諭免許状を有する者を指し、助教諭及び講師を含みます。

※ 2 教諭等が複数の学年を担当している場合、主に担当している学年で換算してください。

## C-1-⑧ 園児の居住市町村

C-1-⑤のアで回答した園児の居住市町村の数	自治体
------------------------	-----

※ 例えば、全部で 50 人在園している園において、40 人が a 県 b 市在住、7 人が a 県 c 市在住、3 人が d 県 e 市在住の場合、3 自治体と回答。

## C-2 職員情報

### C-2-① 教育課程を担当する職員の教員免許状及び保育士資格の取得状況

貴園における幼稚園教諭免許状と保育士資格の併有状況について、以下の表にそれぞれ該当する教職員数をご記入ください。（該当がない場合は0人と回答してください。）

※幼保連携型認定こども園は回答不要です。

	(1) 園長	(2) 副園長・教頭	(3) 教諭等
①専修免許状			
①ー1 ①のうち保育士資格及び小学校教諭免許を保持			
①ー2 ①のうち保育士資格あり、小学校教諭免許なし			
①ー3 ①のうち小学校教諭免許あり、保育士資格なし			
②一種免許状			
②ー1 ②のうち保育士資格及び小学校教諭免許を保持			
②ー2 ②のうち保育士資格あり、小学校教諭免許なし			
②ー3 ②のうち小学校教諭免許あり、保育士資格なし			
②ー4 保育士資格を有する者のうち、特例により上記幼稚園教諭一種免許状を取得			
③二種免許状			
③ー1 ③のうち保育士資格及び小学校教諭免許を保持			
③ー2 ③のうち保育士資格あり、小学校教諭免許なし			
③ー3 ③のうち小学校教諭免許あり、保育士資格なし			
③ー4 保育士資格を有する者のうち、特例により上記幼稚園教諭二種免許状を取得			
④その他（臨時免許状等）			
④ー1 ④のうち保育士資格及び小学校教諭免許を保持			
④ー2 ④のうち保育士資格あり、小学校教諭免許なし			
④ー3 ④のうち小学校教諭免許あり、保育士資格なし			

※1 「教諭等」かどうかは、契約内容等ではなく勤務実態で判断してください。実態と

して常時教育活動に従事していれば、助教諭や講師も「教諭等」として計上してください。

※2 園長・副園長・教頭が他の幼稚園・幼保連携型認定こども園の園長等と兼任している場合は、主となる園においてのみ計上してください。

※3 複数種類の免許状を所持している場合、幼稚園教諭としての最も上位の免許状の欄に計上してください。

※4 特例により取得した幼稚園教諭免許状とは、以下の要件を満たすことにより取得した免許状を指します。

(保育士資格) + (保育士としての勤務経験が3年かつ4,320時間)  
+ (大学等における8単位の修得(上記の実務経験に加え、幼保連携型認定こども園での保育教諭等としての2年かつ2,880時間以上の実務経験を有する場合は、6単位))

### C-2-② 教育課程を担当しない職員の配置状況

貴園における、教育課程を担当しない職員の配置状況について、以下の表にそれぞれ該当する職員数をご記入ください。(配置していない場合は0人と回答してください。)

	(1) 正規雇用	(2) 非正規雇用
① 教諭等 (C-2-①の「教諭等」、以下、同じ)		
② 事務職員及び用務員		
③ 特別支援教育支援員やそれに類する職員		
④ 子育て支援員		
⑤ 養護教諭		
⑥ 栄養教諭及び栄養士		
⑦ 調理員		
⑧ 言語や文化的背景等の違いにより支援を必要とする幼児又はその保護者を支援する職員		
⑨ スクールカウンセラー		
⑩ スクールソーシャルワーカー		
⑪ 看護師		
⑫ バス運転士		
⑬ その他 (具体的に記入 )		

※1 ⑬「その他」について、学校保健安全法に基づく必置職である学校医、学校歯科医及び学校薬剤師は記入不要です。

※ 2 嘱託や派遣等については「(2) 非正規雇用」に計上してください。

**C-2-③ 幼稚園教諭の人材確保に関する情報**（令和4年度の実績で回答してください）

**A 教諭等の採用者数を記入してください。（該当がない場合は0人と回答してください。）**

※ 新卒・中途の別を問いません。

正規雇用		人
非正規雇用		人

**B Aの中に中途採用（いわゆる第二新卒を含む）の幼稚園教諭・保育教諭がいる場合、直前の職種を記入してください。**

※ 把握できる範囲での回答としてください。本人からの回答が得られない場合等には「それ以外又は不明」に計上してください。（該当がない場合は0人と回答してください。）

ア 他の幼稚園・幼保連携型認定こども園		人
イ ア以外の保育施設（保育所や小規模保育事業所など）		人
ウ ア、イ以外で幼児に直接関わる仕事（幼児教室等）		人
エ 小学校又は義務教育学校		人
オ 幼児に直接関わらない職種（エを除く）		人
カ 家庭における子育て・介護等		人
キ それ以外又は不明		人

**C 教諭の離職者数を記入してください。（該当がない場合は0人と回答してください。）**

※ 1 新卒・中途の別を問いません。

※ 2 実態として常時教育活動に従事していれば、助教諭や講師も「教諭」として計上してください。

正規雇用		人
非正規雇用		人

## C-3 研修

(令和4年度の実績で回答してください。)

### C-3-① 研修の状況について、当てはまるものを全て選択してください。

ア 園が自主的に研修を実施した	
イ 都道府県又は政令指定都市が行う法定研修（初任者研修又は中堅教諭等資質向上研修）に職員が参加した	
ウ 都道府県又は市区町村が主催・共催する、法定研修以外の研修に職員が参加した	
エ 幼稚園・認定こども園団体が主催する研修に参加した	
オ ア～エ以外の研修（他園の保育の見学等も含む）に職員が参加した	
カ 研修に参加した職員はいなかった	

※1 「初任者研修」… 教育公務員特例法附則第5条第1項に規定する研修

※2 「中堅教諭等資質向上研修」… 教育公務員特例法附則第6条第1項に規定する研修

### C-3-② 園内研修の頻度

C-3-①においてア「園が自主的に研修を実施した」を選択した場合、実施頻度として当てはまるものを、教育活動期間中と長期休業期間中、それぞれ1つ選んでください。

ア 週に2回以上

イ 週に1回程度

ウ 月に1～2回程度

エ 年に1～数回程度

a 教育活動期間中	
b 長期休業期間中	

## C-4 小学校段階との連携状況

(令和4年度の実績で回答してください。)

### C-4-① 小学校（義務教育学校を含む、以下、同じ）との接続の状況

小学校教育との接続状況を示すものとして最も適当なものを、以下の選択肢から1つ選択してください。

- ア ステップ0 連携の予定・計画がまだない。
- イ ステップ1 連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。
- ウ ステップ2 年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。
- エ ステップ3 授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われている。
- オ ステップ4 接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

※ 各ステップの出典：幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（平成22年11月11日 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）

### C-4-② 小学校との連携のための取組内容

令和4年度の間に実施した小学校との連携のための取組を全て選択してください。

ア 小学校との連携・接続の担当に関する業務分掌を明確にすること	
イ 園児と小学校の児童との交流活動	
ウ 幼稚園教諭・保育教諭と小学校の教職員との合同研修会や研究会の開催	
エ 幼稚園教諭・保育教諭による小学校の授業参観	
オ 小学校の教職員による園の保育参観	
カ 小学校教育との接続を意識した教育課程の編成や指導計画の作成	
キ 小学校と協同して、接続を意識したカリキュラムを編成・実施	
ク その他	
ケ 小学校との連携の取組を実施していない	

### C-4-③ 小学校との情報共有（引継ぎ等）

令和4年度の間に実施した小学校との情報共有の取組を全て選択してください。

ア 指導要録を電子化して小学校へ送付	
--------------------	--

イ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、小学校へ入学する幼児の育ちについて説明	
ウ 小学校での生活を見通した年長児の活動に関して小学校教員が助言・協力	
エ スタートカリキュラムの作成に関して幼稚園教員が助言・協力	
オ その他	

## C-5 施設設備（ICT 等）

### C-5-① ICTの整備

**A 教員用のタブレット又はP Cの配備状況について当てはまるものを1つ選択してください。（リース・自治体からの貸与を含む）**

- ア 1人1台程度
- イ 複数台を共有
- ウ 1台を共有
- エ 園長又は特定の教員のみが利用できるタブレット又はP Cのみを配備
- オ ゼロ

**B 幼児用のタブレット又はP Cの配備状況について当てはまるものを1つ選択してください。（リース・自治体からの貸与を含む）**

- ア 1人1台程度
- イ 複数台を共有
- ウ 1台を共有
- エ ゼロ

**C 貴園の通信設備について当てはまるものを1つ選択してください。**

- ア 無線LANあり
- イ 有線LANのみ
- ウ LAN環境なし

### C-5-② ICTの使用状況

以下a～dの活動それぞれにおけるICTの使用状況について、ア又はイの選択肢から1つ選択してください。

- ア 使っている
- イ 使っていない

a 教育活動で幼児が使用	
b 外部との打合せ・研修	
c 保護者との連絡・情報提供（園の活動の様子の配信、教材等の配信・配布、子育て相談を含む等）	

d 園の運営等に関する内部業務（指導要録の記入や指導計画の作成など）	
------------------------------------	--

※ 職員の個人端末等で実施するものを含む。

### C-5-③ ICTの利用のための課題

ICTの利用にあたっての課題を全て選択してください。

ア タブレット又はP Cの配備

イ 通信環境などインフラの改善

ウ ノウハウのある担当職員又は外部人材の確保

エ 保護者の同意を得るための十分なコミュニケーション

オ 教職員の同意を得るための十分なコミュニケーション

カ 個人情報、サイバーセキュリティ、破損・盗難対策など安全面の対応

キ その他

## C-6 在園児の預かり保育

(C-6 においては、幼稚園教育要領第3章1の預かり保育又は幼保連携型認定こども園教育・保育要領第4章第2の5の一時預かり事業などの活動(以下単に「預かり保育」という。)のみを対象とし、例えば、企業等に保育室等を開放して行われる英語教室等は除く。)

### C-6-① 預かり保育の実施の有無

預かり保育の実施状況について、最もよく当てはまるものを1つ選択してください。

- ア 定期的に実施
- イ 保護者からの要望に応じた臨時の預かり保育のみを実施
- ウ 実施していない

ウを選んだ場合、C-6-②～⑨は回答不要です。

### C-6-② 長期休業期間中の平日の実施の有無

- ア 実施している
- イ 実施していない

a 夏季休業期間	
b 冬季休業期間	
c 春季休業期間	

### C-6-③ 料金徴収（月謝の場合は20日で割り算）

A 学期中の標準的な平日において、8時から18時まで教育課程に基づく教育及び預かり保育の提供を受けた場合の1日（1回）あたりの預かり保育料を記入してください。

※ 上述の時間帯より短いものしか提供していない場合は空欄としてください。

	円
--	---

B Aで空欄とした場合、最も利用される形態1回の預かり保育料を記入してください。

	円
--	---

### C-6-④ 担当職員の免許の保有等の状況

預かり保育担当職員（補助者としてのみ活動する者を除き、教育課程時間の活動を兼務し

ている者を含む) について、以下の表に占める幼稚園教諭免許等の取得の状況ごとに、配置人数を記入してください。(配置していない場合は0人と回答してください。)

ア 幼稚園教諭免許又は保育士資格を保持		人
イ 上記の免許・資格を持っておらず、以下のいずれかに該当 ・ 小学校教諭又は養護教諭の免許を保持 ・ 幼稚園教諭免許又は保育士資格の養成課程に在籍 ・ 子育て支援員 ・ 家庭的保育者研修の基礎研修を修了		人
ウ 上記のどれにも該当しない		人

#### C-6-⑤ 教育課程時間の活動との併任職員

預かり保育担当職員のうち、教育課程時間の活動を担当する職員の数を記入してください。(該当がない場合は0人と回答してください。)

ア 教育課程の活動を担当する職員		人
イ 教育課程の活動を担当しない職員		人

※ 預かり保育において補助者としてのみ活動する者を除く。

#### C-6-⑥ C-6-①でアを選択した場合、一週間の平日のうち、預かり保育を実施する標準的な日数(1～5日)を記入してください。

 日

#### C-6-⑦ 預かり保育を提供した幼児数を記入してください。(令和5年6月の実績)

 人

#### C-6-⑧ 土曜日の預かり保育

A 土曜日の預かり保育の実施状況について、最もよく当てはまるものを1つ選択してください。

ア 定期的に実施

イ 保護者からの要望に応じた臨時の預かり保育のみを実施

ウ 実施していない

B 土曜日に預かり保育を提供している幼児数を記入してください。(令和5年6月の実績)

 人

**C-6-⑨ 預かり保育の実施時間帯（令和5年6月の実績）**

ア 平日の標準的な預かり保育の開始時間を記入してください。	00:00
イ 平日の標準的な預かり保育の終了時間を記入してください。	00:00
ウ 土曜日の標準的な預かり保育の開始時間を記入してください。	00:00
エ 土曜日の標準的な預かり保育の終了時間を記入してください。	00:00

※ 平日または土曜日において預かり保育を実施している場合のみ回答。

## C-7 子育ての支援活動（学校行事として行うものを除く）

### C-7-① 満3歳未満児を預かる保育活動の実施状況

**A 満3歳未満児を預かる保育活動の実施状況について、最もよく当てはまるものを1つ選択してください。**

- ※1 入園前に一時的に行う、いわゆる「ならし保育」の幼児は除く。
- ※2 満3歳の在籍園児は除く。
- ※3 親子登園など、保護者とともに過ごすものは除く。
- ※4 幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園における3号児は除く。
- ※5 時間の長短は問わない。

ア 定期的に実施

イ 保護者からの要望に応じた臨時の預かり保育のみを実施

ウ 実施していない

**B 満3歳未満児を預かる保育活動において、何歳児を受け入れているか最もよく当てはまるものを1つ選択してください。**

※現時点で預かっている幼児の年齢ではなく、園として受け入れることのできる幼児の年齢を選択してください。

ア 0歳児のみ

イ 1歳児のみ

ウ 2歳児のみ

エ 0～1歳児

オ 0～2歳児

カ 1～2歳児

キ その他

**CAでアを選択している場合、一週間の平日のうち、満3歳未満児を預かる保育活動を実施する標準的な日数（1～5日）を記入してください。**

	日
--	---

**C-7-② 子育ての支援活動の実施状況**以下 a～i の子育ての支援活動の実施状況について、最もよく当てはまるものを1つ選択してください。

※ 学校行事として行うものを除く。

ア 週1回以上

イ 月1～2回

ウ 年に数回

エ 実施していない

※ 複数種類の交流・相談・情報提供等活動を実施している場合、全てを合算した実施頻度。

a 対象を保護者全般とした交流、子育て相談、情報提供等の子育て支援	
b 園庭開放など、対象を保護者に限定しない地域交流による子育て支援	
c 父親の育児参加に重点を置いた活動（母親を対象としたものを含む）	
d 言語や文化的背景等の違いにより支援を要する家庭を特に対象とした活動	
e 障害のある幼児等の保護者を特に対象とした活動	
f 養育に関する支援の提供が考えられる保護者を特に対象とした活動	
g ならし保育、親子登園などによる満3歳未満児の子育ての支援 ※C-7-④で回答した満3歳未満児を預かる保育活動を除く	
h 保護者のニーズへの対応のために行う非在園児（年齢を問わない）の臨時的預かり ※C-7-④で回答した満3歳未満児を預かる保育活動を除く	
i その他（具体的に記入	）

## C-8 障害のある幼児等とその保護者への支援

障害のある幼児等（障害の可能性が考えられる幼児を含む）への指導や保護者との連携に  
当たって、実施している支援について、以下のうち当てはまるものを全て選んでください。

（クを選択した場合、ア～キは選ばないでください。）

ア 幼稚園の教員免許を有する者の配置	
イ 特別支援教育支援員など、障害のある幼児等への支援について専門性を有する者の配置（財政支援を含む）	
ウ 巡回相談等、障害への気づきや障害のある幼児等への関わり方（個別の指導計画を含む）に関する助言や研修	
エ 家庭、地域及び医療や福祉、保健等の関係機関との連携（個別の教育支援計画の作成を含む）への助言や研修	
オ 保護者との関わり方に関する助言や研修	
カ 小学校に対して、園での幼児の様子、具体的な支援方法や内容等の引継ぎ	
キ ア～カ以外の取組	
ク 過去に障害のある幼児等が在園したことがない。	

## C-9 言語や文化的背景等の違いにより支援を要する幼児 (以下「外国人幼児等」という。)とその保護者への支援

C-9-① 外国人幼児等への指導に当たって、実施している支援について、以下のうち当てはまるものを全て選んでください。(キを選択した場合、ア～カは選ばないでください。)

ア 保育中に支援を行う教員又は教員を補助する者の配置（財政支援を含む）	
イ 外国人幼児等との円滑な意思伝達のための通訳	
ウ 外国人幼児等も楽しめる遊びの工夫（絵本や歌等）への助言	
エ 幼児の母国の文化、習慣、遊び等に関する研修	
オ 小学校に対して、園での幼児の様子、具体的な支援方法や内容等の引継ぎ	
カ ア～オ以外の取組	
キ 過去に外国人幼児等が在園したことがない。	

C-9-② 外国人幼児等の保護者との連携に当たって、実施している支援について、以下のうち当てはまるものを全て選んでください。(キを選択した場合、ア～カは選ばないでください。)

ア 保護者会等の園行事や園だより等における翻訳	
イ 保護者会等の園行事や園だより等における通訳	
ウ 保護者に日本の幼稚園の生活や教育に関して分かりやすく説明できる資料等	
エ 母国の文化、習慣、宗教等に関する研修	
オ 保護者から日本での生活等に関して相談を受けた場合の連携窓口 (例：母語で受診可能な病院を知りたい等、生活に関して相談を受け場合、幼稚園が保護者に対して紹介できるワンストップの窓口)	
カ ア～オ以外	
キ 過去に外国人幼児等が在園したことがない。	

## C-10 家庭の実情に応じた支援

経済的な支援や児童虐待防止に向けた支援等（以下「経済的な支援等」という。）が必要と考えられる家庭の支援に当たって、実施している支援について、以下のうち当てはまるものを全て選んでください。

ア カウンセラーの巡回相談等、保護者の悩みなどに気付き、相談に応じることができる体制整備	
イ ソーシャルワーカーの巡回相談等、幼児とその保護者が置かれている生活環境に関して福祉的な視点から相談に応じることができる体制	
ウ 経済的な支援等が必要と考えられる家庭の幼児との関わり方や家庭との連携に関する教師への助言や研修	
エ 福祉部局との連携	
オ その他の取組	

## C-11 保有している絵本等の冊数、絵本や物語に触れる機会

### C-11-① 保有している絵本等の冊数

- ア 50 冊未満
- イ 50-100 冊未満
- ウ 100-300 冊未満
- エ 300-500 冊未満
- オ 500-1000 冊未満
- カ 1000-1500 冊未満
- キ 1500-2000 冊未満
- ク 2000 冊以上

### C-11-② 絵本や物語に触れる機会が多様になるようにするための工夫(当てはまるものを全て選択)

(令和4年度の実績(予定していたが、中止になった項目も含む)で回答してください)

ア 興味のある活動に関する絵本を準備している	
イ 絵本や物語を題材にした劇や遊びをしている	
ウ 絵本等の読み聞かせ等を通して小中学生と交流している	
エ 民間団体や地域ボランティアによるおはなし会や読み聞かせ会をしている	
オ 地域の図書館や小学校の学校図書館を園児と訪問している	
カ 読み聞かせの楽しさや読書の重要性について、保護者の理解が促進される機会を設けている(講演会等)	
キ 教師が絵本を借りて幼児に読み聞かせをするなど、園の近隣地域にある図書館等を活用している	